

# 令和 7 年度

## 第 2 回 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会

### <説明資料>

- 資料 1 校内教育支援センター等、児童生徒の居場所  
づくりの工夫
- 資料 2 信州型フリースクール認証制度等の取組状況
- 資料 3 不登校支援機関連携推進員について
- 資料 4 @心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課

長野県県民文化部こども若者局 次世代サポート課

## 心の支援課事業報告

# 校内教育支援センター等、 児童生徒の居場所づくりの工夫



# 環境①

児童昇降口とは別の場所に  
出入口が用意されている



# 環境②

個別の学びに取り組める場所

自分のペースで、方法で学べる場所





空調のある旧パソコン室を改装して利用する



# 環境③

心が落ち着く場所、休まる場所

話を聞いてもらえる場所





横になって休んだり、  
やりたいことに取り組める環  
境を整える

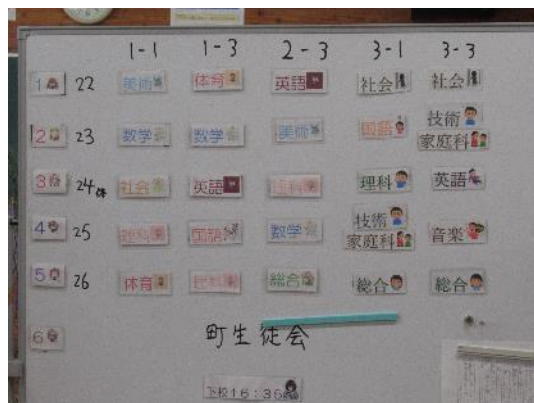
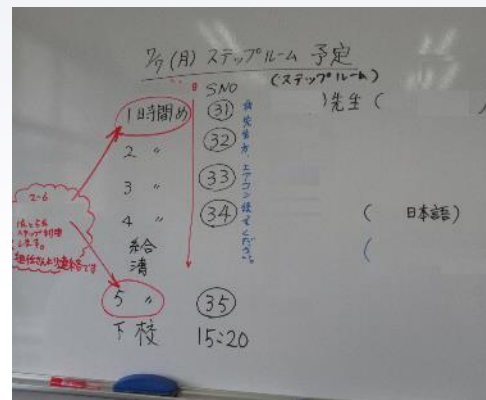
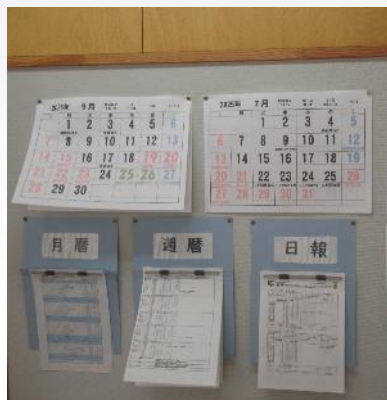




# 環境④

一人一人を見守り、適時適切な支援  
につなげるための様々な工夫

登校時間	時	分	時	分	時	分
朝の会						
1時間目						
2時間目						
休み時間						
3時間目						
4時間目						
給食						



登校時間	時	分	時	分	時	分	時	分
朝の会								
1 時間目	教 118	算	教 120	算	教	算		
	計 14			国	日記	教 P20-P25		
2 時間目	(ダンス) 体			国	(ダンス) 体			
	渡廊下から退学							
休み時間					図書館へ			
3 時間目	国	国 (ダンス) 体	国 (ダンス) 体	遠足(近所)生				
	別日に返却			見学				
4 時間目								
給食								

かわらんべ

支援員が、「計画」と「実際に行ったこと」の記録を蓄積している

# 居場所づくりの工夫



- 空き教室が複数準備できる場合には、居場所としての空間と、個別の学習ができる空間を分けて設置している場合が多い。
- 空き教室を準備する場合には、子どもだけで過ごすことがないように、見守りの仕組みを作る必要がある。特定の支援員が配置できない場合には、利用する子供の実態に合わせて、空き時間の職員や、他の加配の職員の時間を工夫して運用している。
- 職員が常駐する保健室等の一部をパーティションで区切り、一時的な居場所とした運用事例も多い。
- 一時的な利用以外に、ある程度の期間の利用が考えられる場合には、支援会議などを経て利用の方法について相談していく場合が多い。それによって計画的な支援を整備している。

不登校児童生徒に多様な学びの場を提供するフリースクールは、運営基盤の強化や関係者連携による支援の充実が重要。これを解決するため、  
全国初となる「**信州型フリースクール認証制度**」を創設（R6.4月）

- ▶ 活動実績や学校連携など、**13項目**の認証基準を設定  
書類審査のほか、現地確認を行い、外部有識者（学識経験者、教育関係者、NPO支援団体等）による認証懇談会での意見を踏まえて、県が認証
- ▶ 信州型フリースクール認証数 **40か所** ※ R7.7月時点  
(内訳：学び支援型 27か所、居場所支援型 13か所) ※現在、R7.第2期認証審査中

学び支援型：居場所支援のほか、比較的高い開所頻度により、学びの提供に積極的に取り組む施設  
居場所支援型：学び等の土台となり得る、社会的自立や生活自立に向けた相談支援に重点を置いて取り組む施設



＜認証フリースクール等の活動の様子＞



← 長野県フリースクール等情報  
ポータルサイト（kikka☆link～  
きっか・リン～）のご案内

※ 認証施設の活動概要も掲載！

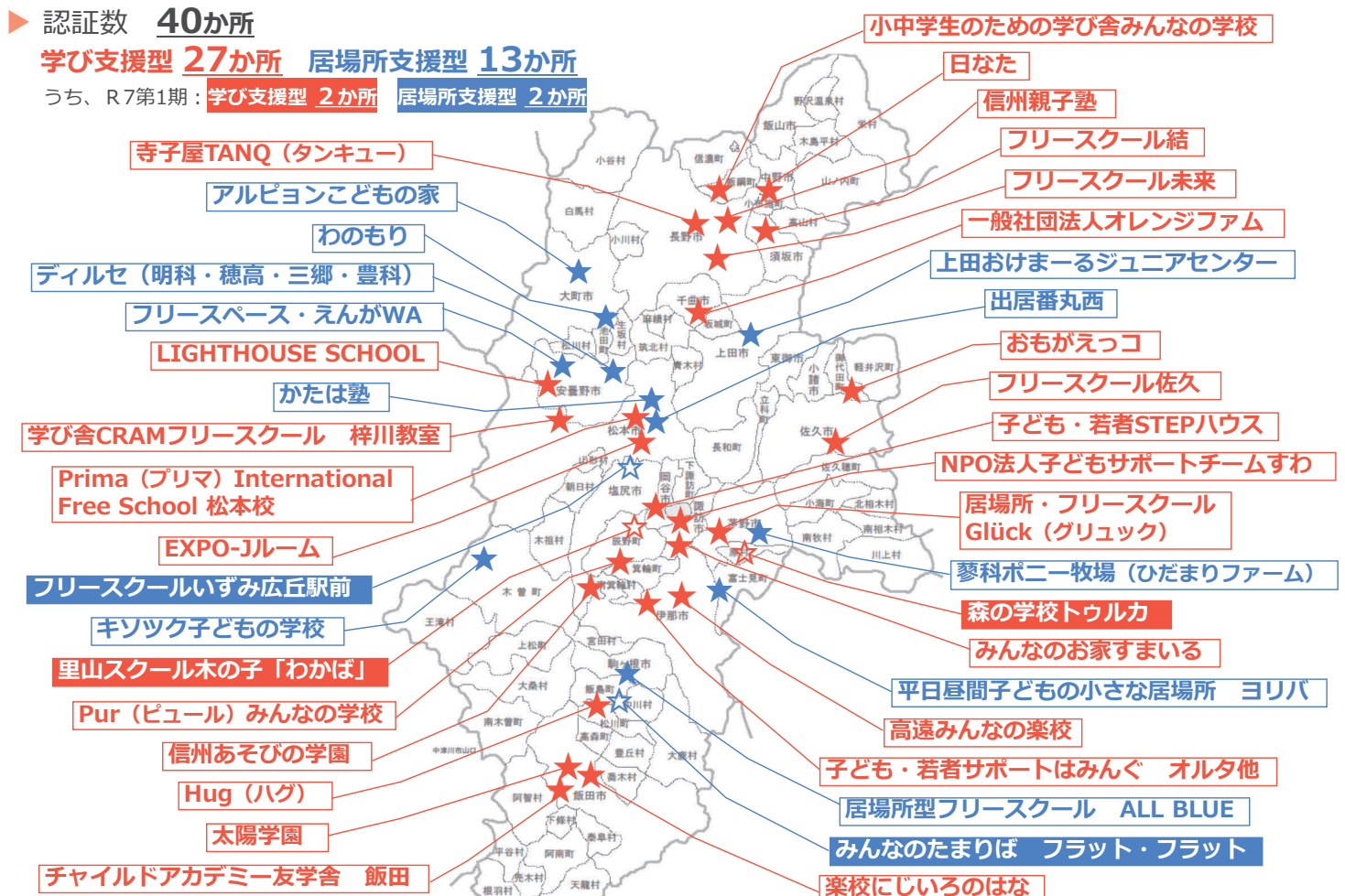
- ▶ 認証フリースクールには以下を支援（R7予算額：121,501千円）

項目	内 容	備考
①運営費補助	運営経費（人件費、活動費等）への補助金交付 ＜補助上限額＞学び支援型：200万円、居場所支援型：60万円 ＜基本補助率＞1/2 ⇒ R7～ 人件費補助率の向上（1/2→3/4）等のほか、安心・安全対策（補助率：10/10）の別枠創設	R6～
②研修	オンライン・対面での研修実施による支援力の向上	R6.11～
③情報発信	県で運営する情報ポータルサイトによる県内フリースクールの活動内容や多様な学びの実践事例、利用者・保護者の声等の発信	R7.3～
④支援人材	在籍校等との連携を促進する「不登校支援機関連携推進員」の教育事務所への配置 ⇒ R7～ 2か所（東北信、中南信担当）から、4か所（各教育事務所に1名）への配置に増員	R6.4～

## 【参考】県内市町村との連携・協力による支援

認証基準のうち「在籍校とフリースクールとの連携・協力」や、家庭負担軽減のための「フリースクール利用者への利用料等支援の実施」について、市町村（教育委員会）へ依頼（R7年度は、**18市町村**で支援実施予定）

## ＜信州型フリースクール 認証マップ（R7.7月時点）＞



※位置は目安です



保護者向けトークライブ & 交流会  
オンライン開催

# 学校に行かない・ 行けない子の 理解を深める 「保護者」のつどい

先輩保護者の  
経験談を  
聞いてみよう



母として、悩んだこと、迷ったことをセキララに書き、  
多くの親子の共感呼んだ『学校に行かない君が教えてくれたこと』。  
著者の<sup>いま</sup>今じんこさんに「今、伝えたいこと」をお話いただきます。



日時 令和7年8月22日(金)  
18:30~21:00

オンライン 参加無料 要申込

対象 長野県在住・在勤・在学の  
学校に行かない・行けない子どもの保護者  
※過去に経験された保護者の方を含みます  
※長野県の方が優先ですが、県外の保護者の方もご参加可能です

申込 下記の URL 又は二次元コードから  
「参加申込フォーム」にアクセスして申し込んでください。  
参加に必要な Zoom のミーティング情報を前日までに送付します。

申込フォーム

<https://forms.gle/a2Xzmr5x5NCoyU568>

申込締切 8月8日(金)



主催：長野県・長野県教育委員会

運営委託団体：NPO 法人多様な学びプロジェクト

# 学校に行かない・行けない子の理解を深める「保護者」のつどい

## 第1部

いま

### 今じんこさんトークライブ

18:30～19:50

じんこさんの講演だけでなく、  
参加者からの質問に答えながら進めていきます。

登壇者

今 じんこ氏 | エッセイ漫画家

中1・小4の兄弟の2児の母。

長男が小1の5月に学校に行かない宣言し、親子で迷い悩みながら学校に行かない選択をするまでの体験を綴った実録コミックエッセイ「学校に行かない君が教えてくれたこと～親子で不登校の鎧を脱ぐまで」を2023年4月に出版。現在6刷重版、大きな話題に。

#### 今さんからのメッセージ

小1から不登校の長男も今年中学生になりました。思春期の葛藤や、進路の不安も当然抱えているようです。小学生の時とはまた違う悩みが出てきて、母の私も日々てんてこまいです。だけど真剣には考えても深刻にはならず、親子で楽しく過ごしています。同じ保護者同士、ゆるゆるとお話しできたら嬉しいです！

モデレーター

生駒 知里 | NPO 法人多様な学びプロジェクト 代表理事

長男が小1の秋から学校を「辞めた」ことで焦りや不安を感じる日々を過ごし、不登校家庭の心理的・物理的ケアが少ないことを身をもって経験。

子ども達が街を居場所・学び場として活動し「不登校」の社会のイメージを変える『多様な学びプロジェクト』を2017年より始める。7児の母。

### 県内の不登校支援に関する情報紹介

19:50～20:00

長野県内の多様な学びの場、居場所、保護者への支援に関する情報の紹介があります  
長野県県民文化部 こども若者局次世代サポート課  
長野県教育委員会事務局心の支援課

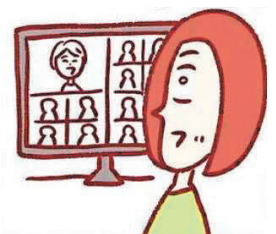
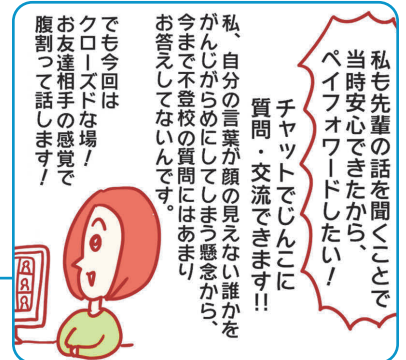
## 第2部

### 保護者交流会（自由参加）

20:05～21:00

語り合い、心を軽くしてみませんか？

学校に行かない子どもを持つ（あるいは持っていた）保護者様たち同士の語り合いの場です。  
話を聞くだけの参加でもOK。※長野県の方を優先させていただきます。



## お問い合わせ

担当 長野県県民文化部 こども若者局次世代サポート課  
次世代支援係 玉井・大日向

電話 026-235-7208 (直通) Email jisedai-shien@pref.nagano.lg.jp

NPO 法人多様な学びプロジェクト 担当 高橋・生駒

Email research\_j@tayounamanabi.com

こどもまんなか

みんなであつこう！こども・子育てに優しい信州

しあわせ信州

一人ひとりの学びたいを叶える





HOME &gt; 多様な学びの実践事例 &gt; 長野県



## 多様な学びの実践事例

保護者向けトークライブ & 情報紹介

# 学校に行かない・行けない子の理解を深める「保護者」のつどい

母として、悩んだこと、迷ったことをセキララに書き、多くの親子の共感呼んだ『学校に行かない君が教えてくれたこと』。著者の今じんこさんに「今、伝えたいこと」をお話いただきます。

登壇者：今じんこ（エッセイ漫画家）  
モデレーター：（写真）

オンライン 参加無料 要申込

令和7年8月22日（金） 18:30～21:00

対象 長野県在住・在勤・在学の学校に行かない・行けない子どもの保護者

主催：長野県・長野県教育委員会 運営委託団体：NPO 法人多様な学びプロジェクト

## “学校に行かない・行けない子の理解を深める「保護者」のつどい”を開催しました！

長野県  
2025年9月18日 公開

こんにちは。長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課です。

8月22日（金）に“学校に行かない・行けない子の理解を深める「保護者」のつどい”をオンラインで行ったところ、保護者の皆さんを中心に支援関係者を含めて180名の方にご参加いただきました。大変多くの皆さんにご参加いただき、本当にありがとうございます。当日の様子や参加者の皆さんからの感想などを少し紹介したいと思います。

### 第1部・今じんこさんトークライブ

エッセイ漫画家・今じんこさんに、ご自身の経験をもとに、お子さんが不登校になったときから現在に至るまでの過程を、4つの時期に分けてお話いただきました。

フリー

北アルプス地

松

木曽地域

フリー

認証の種

支援分野

支援方法

エリア

受入状況

フリーワ

た質問やチャットに寄せられた皆さんの思いや気持ち悩みなどをタイムリーに拾いながら、今さんとのやりとりでさらに深掘りしていただきました。

お2人のご経験や視点から、子どもたちの多様な学びや保護者としての向き合い方について深く考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

#### トークライブ の感想

- ・当たり前だと思っていた学校への連絡や給食費など、しんどいのは自分だけではなかったことが分かった。
- ・チャットだと他の方の話も聞けて良かったし、自分から発信するハードルも下がって話しやすくて良かった。参加者間での一体感があった。
- 『自分だけじゃないんだ…』『そうそう』と共感できて、気持ちが軽くなって『これで良かったんだ…』と安心出来た。
- ・YouTubeの字幕から漢字を学んでいたお話など、そういうことだったのかと、子どもの理解につながり、不登校への解像度が高くなった。
- ・不安な気持ちが自分だけではなく、とても親としても苦しい体験をしたのだと思え、安心した。
- ・チャットへもご回答いただけたり、反応していただけて、満足感があった。
- ・今じんさんと生駒さんのやり取りが、とても聞きやすかった。

### 第1部・県内の不登校支援に関する情報紹介

県民文化部こども若者局次世代サポート課からは、「長野県フリースクール等情報ポータルサイトkikka☆link〜きっか・リン〜」の紹介、教育委員会心の支援課からは、子ども・保護者と学校・市町村を結ぶきっかけづくりのための「コミュニケーションシート」の紹介をしました。

- [コミュニケーションシート\(PDF\)](#)
- [長野県教育委員会 心の支援課「生徒指導」のページ](#)

これらの情報をご家庭での支援や今後の選択肢の一助となりましたら、うれしく思います。

#### 情報紹介の感想

- ・フリースクールなどの情報が得られたことも良かった
- ・kikka☆link、コミュニケーションシートの存在を知ることができた。

### 第1部の終わりに・・・

顔出しOKの方たちと、今回の保護者のつどいの記念撮影を行いました。

第1部までご参加のみなさん、ありがとうございました。



### 第2部・保護者交流会

第2部の交流会は、ブレイクアウトルームを作り、お互いの安心安全を確保した中でざっくばらんにお話ができる場を提供させていただきたいという運営側の想いもあり、『長野県在住の方優先で限定50名先着順』とさせていただきます。

残念ながら参加がかなわなかった皆さま、大変申し訳ございませんでした。

交流会の感想	<ul style="list-style-type: none"><li>・今じんこさんやいろんな方のお悩みや今を聞いて、自分もそうだったな、そうだなと振り返ることができ、客観的に見つめることができた。</li><li>・自分と同じ気持ちや体験の方が沢山居ることを知り、泣いてしまいました。</li><li>・不登校がいじめによる方が複数いて、我が家もそうだったので、第1部とは違うものが共有出来て良かった。</li></ul>
--------	---

## 最後に

長野県では、このような「保護者」に向けたイベントは、初の試みでもあり、手探りの中で準備を進めてきました。第1部・第2部ともに、概ね9割の方に今回の内容について満足していただけたという感想をいただき、あらためてイベントを行ってよかったなと思っています。

また、この「保護者」のつどいに多大なるご尽力をいただいたNPO法人多様な学びプロジェクトの皆さま、イベントの進行にご協力いただきました皆さまに心より感謝します。

では、次回イベントでお会いできる日を楽しみにしています。

全体を通じての感想	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもが長くお留守番が出来ず、見ていてもらえる人もなかなかいないため、講座、講演等は参加しづらかったのですが、オンラインだったので参加できました。</li><li>・近場であっても、なかなか不登校児がいる保護者の皆さんとリアルで会うことができていなかったのも、オンラインであっても、今回、書籍を出されている今じんこさんや経験のある方々、同じ様に悩んでいる皆さんの話が聴けたのは、とても良かった。悩んでいるのは私だけではないんだ…とホッとしたところが大きかった。</li><li>・みんなの話が聞けたこと、先輩方々の経験談が聞けたこと、色々な方の意見を聞くことができたこと。</li><li>・少し客観的に今の状況を捉えられて気持ちが楽になった。</li><li>・今回のような集いの場所に参加できることで、保護者同士の気持ちのよりどころにもなるのではないかと思う。</li><li>・まだもがいていますが、少し楽になれた気がする。子どもの考えや思ってることを大切にあげたいし、まずなによりも、この笑顔を守りたいと改めて思うことができた。</li><li>・不登校当事者目線、立場を尊重してくれているイベントと感じた。また開催してほしい。</li><li>・不登校の子どもが成人になった方の体験談など聞けるとよかった。</li><li>・申込時点で、第2部への参加が締め切られていたので残念。</li><li>・こういう講座を知らない方もたくさんいると思う。学校との連携を強く望みます。</li></ul>
-----------	---

## アーカイブ動画（一般公開用）はこちらです

※第1部の今じんこさんトークライブの質疑応答部分と、第2部の保護者交流会は動画に含まれていません。



信州フリースクール居場所大集合!!

# きっか・リン kikka☆linkフェス2025

こどもプレイパーク  
・ボードゲーム・カードゲーム  
・表現コミュニケーションWSなど

分科会（フリースク居場所の活動紹介）  
・意見交換や対話のじかん

日時

2025年

9月12日 金

12:00-15:00

会場

信州大学松本キャンパス  
全学教育センター

長野県内フリースクール等、  
民間施設の活動概要を掲載!

kikka☆link  
～きっか・リン～

長野県フリースクール等情報ポータルサイト



お問合せ窓口は…

コチラから

長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課  
次世代支援係 玉井、大日向



✉ : jisedai-shien@pref.nagano.lg.jp

TEL : 026-235-7208 (直通)








主催：信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会  
共催：長野県など（予定）

# kikka☆link フェス 2025

～ 信州フリースクール居場所大集合！ ～



## ☆全体スケジュール（◇会場）

11:30～	・一般受付開始 ◇1F 学生コミュニケーションスペース		
12:00～ 12:20	オープニング・イベント（阿部知事&武田教育長ビデオメッセージなど） ◇西校舎2F20 番（この後、14:50 までは休憩室、飲食スペースとしてご利用ください）		
12:30～ 14:50	分科会	プレイパーク 「信大生ボランティア」プレゼンツ！	ワークショップなど
	◇2F(23 番～26 番) ◇3F(33 番～36 番) ・発表①12:40～ ・発表②13:30～ ・発表③14:20～ ※別紙参照  ※発表者の資料等は、一部こちらでも公開しています。→  	◇3F(312 番, 313 番) ・ボードゲーム ・カードゲーム ・テレビゲームなど   ◇3F(32 番) ・色々な「あそび」コーナー   ◇2F(28 番) ・科学マジックなど  ※天候によっては希望者による「キャンパスツアー」も予定しています。 	◇3F(37 番) ・ワークショップ(表現コミュニケーション Lab.) 第1回 13:00～13:30 第2回 14:00～14:30 ※「表現コミュニケーション Lab.」とは →  ◇1F 学生コミュニケーションスペース ・コーヒーコーナー(仮) ※11:30 オープン  ◇1F 機構ラウンジ ・県による展示や説明  ◇4F(45 番)・休憩・昼食利用可  ◇4F(411 番)・救護室
15:00～ 15:20	・クロージング・イベント（総合アドバイザー荒井英治郎先生メッセージなど） ◇西校舎2F20 番		
15:20～ 15:50	・片付け（参加団体のみなさんは、できる限りご協力ください。）		
16:00～ 18:00	・懇親会（事前申込制ですが、お気軽にスタッフにご相談ください。） ◇医学部附属病院5F レストラン「ソレイユ」		



## アンケート、ご協力のお願い

今後の活動に活かしていくために、ぜひ、みなさんの声を聴かせてください。

本日は、ご来場いただきありがとうございました。  
 また、お会いできる日を楽しみにしております。  
 関係者一同





# kikka☆linkフェス2025 分科会タイムテーブル

会場	12:40 ~ 13:20	13:30 ~ 14:10	14:20 ~ 14:50
23番 講義室	NPO法人Hug [南信]	地球人 [南信]	うえだ子どもシネマクラブ [東信]
	「チームで支える～行政・学校との連携～」 篠田阿依	居場所は居場所 上條美季	映画館が新しい学びの場になる 直井恵
24番 講義室	フリースクールオレンジファム [北信]	NPO法人はみんぐ [南信]	フリースクールいずみ [中信]
	オレンジファムの子どもの変化 中島壮太	オルタの子どものたちとつくる日々 石田健祐	学習塾が提供するフリースクール 高木徹也
25番 講義室	NPO法人子どもサポートチームすわ [南信]	ぱーむぼいす「日なた」 [北信]	出居番丸西 [中信]
	不登校支援のこれまでとこれから ～信州型フリースクール認証制度の現状～ 小池みはる	「教育は無償」の社会へー 無償の学び「日なた」 池田剛&戸枝智子	みんながまなぶ、みんなでまなぶ 岩田清美
26番 講義室	小児科医・子どものこころの専門医 [中信]	子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」 [中信]	おもがえっコ [東信]
	学びと育ちの場は学校以外にもいろいろある！ 新美妙美	居場所としての「はぐルッポ」 西森尚己	見方を変えれば「らしさ」が見えてくる… 不登校は特別な事じゃない 中村里子
33番 講義室	親子塾 [北信]	太陽学園 [南信]	里山スクール木の子「わかば」クラス [南信]
	HSC・HSPからのメッセージ ～子どもの命を守るため大人にできること～ 高柳健&齋藤光代	太陽学園の教育理念と日々の活動の様子 ・現在の姿とこれから目指す形 荒木政吾&北澤香寿美	里山スクール木の子「わかば」クラスご紹介 菊地ユミ
34番 講義室	寺子屋TANQ [北信]	キソツク [中信]	夢科ポニー牧場(ひだまりファーム) [南信]
	寺子屋TANQという選択肢 ～こどもの姿からまなぶ、山あり谷ありでこぼこのあゆみ～ 市川寛	木曾でつくる、キソをつくる 田中千央	馬に、自然に、人に、触れて新たな居場所へ。 上村優一郎
35番 講義室	LIGHTHOUSE SCHHOOL [中信]	ポジ◎ラボ(ポジマルラボ) [中信]	フリースクール未来 [北信]
	不登校だから孤独？孤独だから不登校？ ～あまりに身近なことが不登校を作る～ 高林賢	「できっこないをやってみよう に変えてみない？」 丸山亜希&勇人	あらゆる子どもたちがハッピーになる居場所 安部映樹
36番 講義室	上田おけまーるジュニアセンター [東信]	NPO法人グリュック [南信]	子ども・若者STEPハウス [南信]
	おけまーるの様子や知っていた方が良いこと 小林みゆき	子どもたちのやりたいこと、好きなこと、 なりたいもの、その気持ちを大切に場所。 富岡	不登校から大人の引きこもりサポート、 活動発表 上條紗良

発表資料の一部は二次元コードからご覧いただけます



# kikka☆link（きっか・リン）フェス 2025 ～信州フリースクール居場所大集合～ 実施（共催）報告

次世代サポート課

## 1 実施日時

令和7年9月12日（金）12時～15時

## 2 実施場所

国立大学法人信州大学 松本キャンパス(全学教育センター)

## 3 主催

信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会



＜参加した子どもの感想発表＞

## 4 目的

フリースクールや居場所の運営者、スタッフ、利用者、不登校児童生徒の支援者が集まり、交流や連携を深めることで、活動内容を地域に広く発信し、理解と支援の輪を広げる。また、子どもたちの多様な学びを支えるために、それぞれの立場から支援のあり方を学び合い、今後の支援充実につなげる機会とする。

## 5 実施内容

### （1）フリースクールや居場所の取組紹介

分科会形式により24団体が発表



＜フリースクール等の取組紹介＞

### （2）子どもたち向け体験イベント等

#### ① 信州大学学生ボランティアによる体験型イベント

（様々なゲームコーナー・遊びコーナー、科学マジック、キャンパスツアー）

#### ② 「表現コミュニケーションLab.」によるアート体験ワークショップ

#### ③ 県関連事業の展示（ウェルビーイング実践校 TOCO-TON、信州学び円卓会議、信州型フリースクール認証制度の取組など）

#### ④ 喫茶コーナー（信州大学学生サークルの出展）



＜喫茶コーナー＞



＜アート体験ワークショップ＞



＜信大生ボランティアによる体験型イベント＞

## 6 参加申込者数と属性

大人 247 名 子ども 94 名 合計 341 名

(フリースクールや居場所・教育支援センターのスタッフ、フリースクールや居場所・教育支援センターを利用する子どもたち、家庭で過ごしている子どもとその保護者、教育関係者、県外自治体担当者等)

## 7 参加者アンケート結果

- (1) フリースクールや居場所の具体的な活動内容や活動理念などを知ることができたか。
  - ・ 5段階評価 平均 4.1
- (2) 他の関係者との情報交換や対話により、自身の実践や今後の対応に役立つと感じたか。
  - ・ 5段階評価 平均 4.3
- (3) 他の関係者との情報交換や対話を通して、心理的な安心感を得ることができたか。
  - ・ 5段階評価 平均 4.2

## 8 参加者の感想（抜粋）

### 【良かった点】

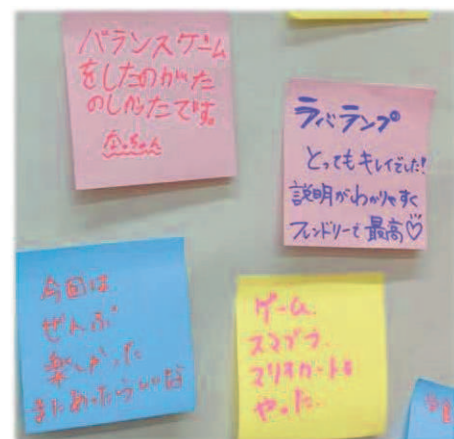
- ・ 複数のフリースクールや居場所の活動を見聞きし、それぞれの取組に感銘を受けた。
- ・ 子どもたちが安心して過ごせる場が県内に多く存在することを知り、学校以外にも選択肢があることの意義を再認識した。
- ・ 子どもたちが安心して自由に楽しめる場であった。
- ・ 母子分離不安のある子どもが、大学生やスタッフの温かいサポートにより、すんなりと遊べた。
- ・ 子どもが自発的に行動していた。
- ・ 保護者が安心して分科会に参加できた。

### 【課題と感じた点】

- ・ 分科会の時間が地域ごとに固まっていて、他地域の話が聞けず残念であった。
- ・ 分科会の時間が足りず、もっと多くの話を聞きたかった。
- ・ 意見交換の時間がもう少しあると有意義だった。
- ・ オンライン配信があると、外出できない人にも参加機会が広がる。



<武田教育長からのビデオメッセージ>



<参加した子どもたちのメッセージ>

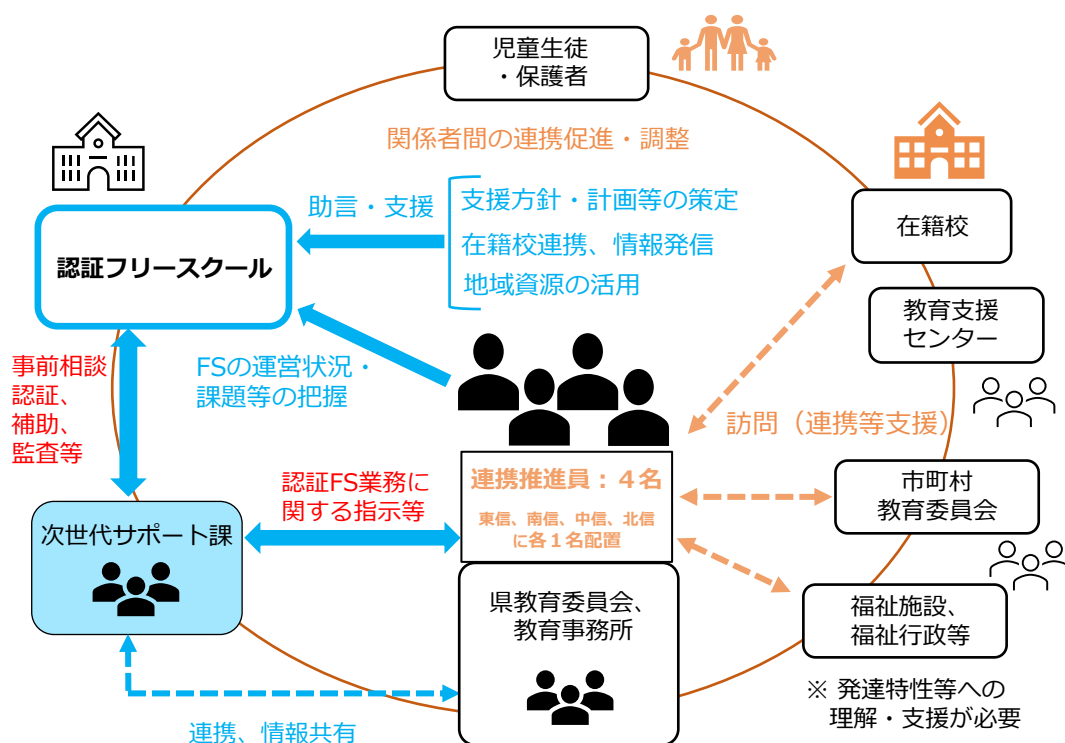
# 不登校支援機関連携推進員について

## 不登校支援機関連携推進員

- 不登校児童生徒等やフリースクール等民間施設の増加を踏まえ、市町村教委育委員会、在籍校、教育支援センター、FS等民間施設など、不登校児童生徒の支援に関わる関係機関の連携を促進
- 認証フリースクールの活動内容・運営状況を把握し、支援方針や計画策定、在籍校等との連携に対して助言・支援

R6：東北信、中南信に各1名（計2名）配置

→ **R7～：東信、南信、中信、北信に各1名（計4名）を教育事務所に配置**



- ・不登校関係の各種調査等
- ・支援関係者向け研修会 他

## （参考）業務内容の例

- ◆市町村教育委員会や在籍校、教育支援センター、認証FS等を訪問し、不登校児童生徒等への支援状況を把握するとともに、広域的な観点から、課題解決や支援機関相互の連携体制づくりを促進。
- ◆認証フリースクールでの、利用者の個別支援方針や支援計画の策定・評価手法の助言や、保護者や在籍校・市町村教育委員会等との共有を促す。
- ◆FSの運営方針や支援内容、料金体系等の情報公開やその発信方法等について助言を行う。
- ◆教育以外の分野（福祉、行政）の支援機関との連携体制づくりや、地域資源（自然・文化・人材）の活用などの橋渡しによる、個々の児童生徒に合った、信州らしい多様な学びの提供を促す。
- ◆支援チーム会議、支援関係者向け研修会への参加や有用な研修等の案内、不登校関係の各種調査などの情報の把握・整理作業等を担う。

## ＜連携推進員の配置状況＞

東 信：塚田 直道      南 信：袖山 秀明  
北 信：玉川 隆雄      中 信：犬飼 峰





# @心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課  
長野市大字南長野字幅下692-2  
電話番号：026-235-7436

## 令和7年度 不登校児童生徒等の学びの継続支援 に関する懇談会



座長 荒井 英治郎 先生

信州大学教職支援センター准教授

第1回 令和7年6月18日(水) オンライン開催  
第2回 令和7年10月15日(水) オンライン開催  
第3回 令和8年1月29日(木) オンライン開催

### 構成員

近藤 守 × 酒井 秀樹 × 小松 亨 × 村上 陽一

市町村教委連絡協議会会長 上田市教育長 塩尻市教委教育支援センター主任 信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会代表

高坂 由美子 × 田中 和恵 × 甘利 由美恵 × 成澤 乃彩

塩尻西部中学校長 箕輪中部小学校長 不登校児を応援する保護者の会チャレンジP-Smile顧問 東京学芸大学院生  
(敬称略)

本懇談会は、不登校が長期化している児童生徒が自分らしく学び続けられるための支援の充実を目指し、令和3年度より開催しています。

不登校支援に関わる多分野の有識者が参加し、現場の声を踏まえた支援策・施策となるよう意見交換を重ね、教育支援センターの機能拡充やアウトリーチ支援、オンライン学習、フリースクールとの連携など、多様な学びの充実に向けた議論がなされています。懇談の成果は年度末に「はばたきvol.1〜3」などの資料にまとめられ、県内の支援体制づくりには活かされています。家庭・学校・地域が連携し、子ども一人一人の学びを尊重する仕組みづくりを進めるための重要な場となっています。



### 第1回懇談会(6.18)の主な議題と協議内容

#### 1. 文部科学省からの情報提供

不登校支援に関する法令等の説明(文科省生徒指導室室長 総崎由希氏)

#### 2. 長野県の取組報告

心の支援課：不登校児童生徒等の学びの継続支援事業について

次世代サポート課：信州型フリースクール認証制度の取組状況

#### 3. 意見交換(主な論点)

論点①：家から出ることができない児童生徒への支援

田中委員：校内教育支援センター設置の意義と人員配置の現状

甘利委員：佐久市の「ハートフルフレンド」事業によるアウトリーチ支援の紹介

成澤委員：支援員の配置と教職員との連携の現状、情報共有の在り方

村上委員：つながりのタイミングの重要性、情報・交通・社会的視線の壁

論点②：支援者間の連携

小松委員：学校と校内教育支援センターやフリースクール等との連携、コーディネーターの必要性

高坂委員：塩尻市のサポートルームの運営実態、地域貢献活動によるつながり支援

近藤委員：学びの多様化と社会的自立の視点、制度の柔軟な解釈の必要性

# 意見交換と議論の流れ

## 1. 家から出られない児童生徒への支援

- ・ 小学校低学年の不登校が増加する中、校内教育支援センターの支援員の配置がまだ十分ではないことが課題として挙げられました。支援員がいることで子どもが安心して登校できるようになる事例も報告されました。
- ・ 佐久市の「ハートフルフレンド」によるアウトリーチ支援が紹介されました。支援員が家庭へ訪問し、ゲームやスポーツなどを通じて子どもと関わることで、外部とのつながりを築いています。これは学校に通えない子どもにとって、外部との貴重な接点となっています。
- ・ 保護者支援の視点として、保護者自身も学校に足を運ぶことに心理的な負担を感じていることが共有され、保護者同士のつながりや、学校との関係づくりの工夫が求められていることが指摘されました。

## 2. 支援者間の連携のあり方

- ・ 学校や教育支援センター、フリースクールなど、支援の場が多様化する中で、各所を繋ぐコーディネーターの存在が連携の鍵になると指摘されました。学校だけでなく、教育支援センターの職員が支援会議を主導する取組も始まっています。
- ・ 情報共有の課題として、校内の支援員と教職員の間で、児童の様子を共有する仕組み（記録ノートなど）があるものの、活用が十分でない現状も報告されました。
- ・ 塩尻市では、地域貢献活動や体験型講座を通じて、学校に来づらい子どもが地域とつながる機会を得ている事例が紹介されました。SNS（Instagram）を活用した情報発信も効果を上げています。



## 3. 「つながり」の意味と支援の方向性

- ・ つながりたいけどつながれない子への配慮としては、関わる適切なタイミングを見極めることが重要であり、支援者が先に保護者とのつながりを充実させていくことで、子どもへの支援が進むケースもあります。
- ・ 不登校の捉え方の変化については、「学校復帰」ありきではなく、「社会的自立」を目指すためにその子にとって必要な支援が求められているという認識が共有されました。学びの場は学校だけでなく、地域や民間の場も含めて多様であることが必要であるという意見が多く出されました。

## 懇談のまとめ（荒井 英治郎 座長）

- ・ 支援の場の居心地やプログラムの質、校内支援のノウハウ共有の必要性
- ・ 支援者間の連携強化と情報共有の仕組みづくり
- ・ 「登校復帰」ではなく「社会的自立」を目指す不登校支援へ

この懇談会では、「不登校＝問題行動」ではなく、「その子らしい学びと成長を支える」という視点が強調されました。今後は、子どもや保護者の「つながりたい」という思いに寄り添う姿勢や、校内外の支援者との連携を意識した情報共有と協働、子ども一人ひとりの状況に応じた柔軟な対応と居場所づくりについて考えていく必要が示唆されました。



下記ホームページに、令和3年度から今回までの懇談会の要旨および提示資料などを詳しく掲載しています。不登校の現状や支援の方向について、これまでどのように議論がなされ、県の支援体制づくりに活かされてきたのかを見渡すことができます。また、いじめ問題や不登校支援に関する情報を多数掲載していますのでご覧ください。